

JA 三次管内で夏収穫の白ねぎを初出荷

【平成 29 年 8 月 30 日掲載】

JA 三次管内では、今年から取組を始めた夏（7～9 月）収穫の白ねぎの出荷が、7 月 20 日から始まりました。平成 27 年から開始した白ねぎ栽培は、平成 29 年には、20 戸で約 3.8ha となり、秋から冬（11～1 月）に収穫する作型を中心に組み込まれています。夏収穫の作型は、12 月に定植する作型と大苗育苗し 4 月に定植する作型の 2 パターンがあります。そこで、作期分散と白ねぎの収穫調整設備などの有効利用を狙い、5 戸が約 20a で試作しています。

約 10a 試作（12 月定植）し、管内で一番早く出荷を開始した三次市三和町の國岡真一（くにおかしんいち）さんは、「夏収穫の作型では、秋冬収穫の作型で問題となるさび病などの病害の発生を抑えられ、品質の良いものができた。」と夏収穫に手応えを感じています。

今後、北部農業技術指導所と JA 三次は、基本となる秋冬収穫の白ねぎの収量確保・規模拡大とともに、試作した夏収穫の白ねぎの病害や品質課題を整理したうえで、研修会などで報告し、地域に普及していきます。



【白ねぎを収穫する國岡さん】



【夏収穫白ねぎ出荷会議】

情報提供元

北部農業技術指導所